

環境影響評価審査書

14 ミノルタカメラ(株)厚木研究所建設事業

1 騒音

建設作業に伴い発生する主な騒音としては、アースドリル及びアースオーガによる杭工事、ブレーカによる杭頭処理などの騒音があり、これらの騒音は、高さ3メートルの万能綱板を仮設するなどの対策により、敷地境界線上で75ホン以下になると予測しているが、建設機械の騒音レベルの把握が的確に行われているとは認められないので、建設機械と騒音レベルとの関係について十分調査したうえで、予測評価をし直すこと。

また、工場騒音については、住宅の立地状況を考慮し、屋上の冷却塔の騒音などの防止に留意すること。

2 電波障害—テレビジョン電波障害について

本事業の建築物による電波障害は、遮へい障害のみであり、建築物の高さ、電界強度及び電波の入射角度などから、反射障害は起こらないと予測しているが、この結論までの過程が明らかとなっていないので、予測の方法、条件、結論の導入方法など、予測評価の内容を具体的に明らかにすること。

3 植物・景観

事業予定地は、水田跡地に約1.5メートルの盛土が行われた造成地であり、チガヤ群落、ヨシ群落などの草地で占められている。また、事業予定地周辺は、農業利用と工場倉庫及び住宅などの都市的土地利用とが混在し、比較的緑が少ない地域となっている。

このような地域において、本事業によってつくられる緑は、生活の場あるいは都市環境の豊かな環境づくりのうえで中心的役割を果たすものと考えられることから周辺の住宅や田園景観との調和を図りながら、新しい都市環境の核となる緑づくりを進めることが求められ、また、緩衝緑地のうち、事業予定地北側及び西側の道路に接する部分については、街路景観としても地域とのかかわりの点で重要であることから、親しみのもてる明るい空間構成となることが求められるものと考えられる。

このため、将来の土地利用計画も考慮しながら、長期的な視点にたった植栽計画の基本的な考え方を明らかにし、土地のもつ潜在能力をいかしながら、地域の特性に配慮した樹種の選定及び樹木の健全な生育を図るためのマウンドの形成、植栽方法などについて検討し、実施すること。

4 安全—交通安全について

建設工事用車両の事業予定地への出入は、国道129号から市道酒井上落合線に入る経路が予定されている。

この工事用車両の搬入路の交通安全対策として、事業計画では、通学者、通勤者の集中する午前7時から8時30分までの間には、工事用大型車両の運行を原則として禁止する、運転者に対する安全運転の教育を徹底するなどの対策を実施することにより、安全を確保するとしている。

しかし、この市道酒井上落合線には、中学校への通学路と交差する箇所が1箇所あり、この交差箇所を利用する生徒の利用実態が明らかとなっていないので、生徒の利用実態を十分調査し、運転者に注意をうながす交通安全施設を設置するなどの安全対策を検討するとともに、運転者に対する安全運転のいっそうの教育を徹底すること。

5 その他

今回計画の建物予定地周辺の雨水の排水については、埋設管渠によって集水し、北側道路沿いの既設排水路に放流する計画となっているが、将来計画建物予定地についての雨水排水の計画が明らかとなっていない。

排水の方法によっては、事業予定地南側の農用地に対して影響を与えることも考えられるので、将来計画建物予定地についても、雨水排水計画を具体的に示すこと。

また、既設排水路の下流では比較的広い範囲で農業用水として利用されているため、このことに留意し、農作物に影響を与えないよう配慮すること。